

令和7年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	昨年度と比べ、設問1は、児童生徒・教職員は高水準を維持しており、児童生徒はやや向上した。一方、保護者評価は10%低下した。教育活動自体は一定の成果が出ていると考えられるが、取組の具体性や成果の可視化が十分伝わっていない可能性がある。情報発信の改善が求められる。 設問2は、児童生徒(+13%)、教職員(+5%)は向上したが、保護者(-14%)は低下。学校内では改善実感が広がっている一方、家庭側との認識差が拡大している。家庭との連携方法の再検討が必要である。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		昨年度と比べ、児童生徒が+35%と大幅改善。非常に大きな成果といえる。 教職員はやや低下、保護者もやや低下していることから、児童生徒の内面的成長が十分外部に伝わっていない可能性がある。成功要因の分析と発信が重要である。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	昨年度と比べ、設問4は、三者とも概ね向上または高水準維持。特に教職員、児童生徒(ともに+10%)が改善。学校の取組が一定の成果を上げていると考えられる。引き続き継続・深化させたい。 設問5は、教職員は向上したが、保護者は大きく低下(-17%)。保護者の期待とのずれが生じている可能性がある。具体的な支援内容や成果の共有を強化する必要がある。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	昨年度と比べ、設問6では、三者とも安定または向上。保護者が改善(+3%)。取組が家庭にも一定程度評価されていると考えられる。 設問7は、児童生徒は向上(+6%)したが保護者は大幅低下(-17%)。最も認識差が大きい設問の一つ。家庭側が成果を実感しにくい分野である可能性があるため、具体的なエピソードや成果の見える化が必要。

(3) 最適な教育環境の整備		
8 安全・安心な園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備	
<p>学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。</p>	<p>昨年度と比べ、設問8では、教職員が大幅低下（-36.4%）。保護者も低下。校内で課題意識が高まっている。取組の見直しや負担感の増大など、背景要因の分析が必要。R7で最重要検討項目といえる。</p> <p>設問9では、三者ともほぼ横ばいで高水準維持。安定した取組ができていると考えられる。</p>

(4) こどものいのちと権利の擁護		
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり		
<p>学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。</p>		<p>昨年度と比べ、教職員（+9.5%）、児童生徒（+4.7%）は向上。保護者はやや低下。学校内部では改善実感があるが、家庭への伝達に課題が残る。</p>

独自項目		
独自項目1	独自項目2	
<p>学校目標「気づき、考え、行動する」に向けて取り組んでいますか</p>	<p>「あいさつ、合図、あとしまつ」（あーちゃんズの取り組み）ができていますか。</p>	
		<p>昨年度と比べ、項目1は、教職員が大幅向上（+14%）。三者とも高水準。校内体制や取組の充実が進んでいると考えられる。</p> <p>項目2は、児童生徒は改善また教職員は高水準維持。保護者はやや低下。概ね良好であるが、保護者評価の動向には留意が必要。</p>

独自項目3		
<p>「話をしっかり聞く」ができていますか。</p>		
		<p>昨年度と比べ、三者とも大きな変動はないが、教職員はやや低水準傾向。教職員側の課題認識が反映されている可能性がある。具体的な改善策の検討が望ましい。</p>

来年度の具体的な取組について

○学校教育目標について、引き続き児童、家庭、地域に対して情報発信を行う。

○協働的な学びを充実させるために、児童が学習において対話のよさを実感でき、学びを深められるような授業づくりを目指し、研修を行う。また、学校行事その他の活動においても「ともに支え合いやり遂げた」という達成感を味わえるような取組を行う。

○「子どもの権利条約」「インクルーシブ教育」等について職員の理解を深める。学級・学校便り、PTA新聞、諸団体会合などの機会を通して情報発信も行う。

○年2回の教育相談の方法、内容等について見直しをする。月毎の「絆アンケート」を工夫し、児童が出すサインに対して高いアンテナを張る。また、SC、SSW、こどもホットライン等外部相談機関の周知を定期的に行う。

小中学校関係者評価

○子どもと担任が、日常的な会話をできる環境を大切にしてほしい。

○子ども同士が話し合っている授業がよく見られた。素晴らしい雰囲気であった。

○長期休業中はコミュニティセンターを活用するなど、地域と連携して子どもの居場所を増やしてほしい。

○教師の存在は大きい。先生方の働き方改革を一層進めてほしい。☑

☑

☑